



Sabae Rotary Club

R | 第2650地区 2021-2022年度 鯖江ロータリークラブ

2021-22年度 国際ロータリーテーマ

2021-22年度 第2650地区スローガン



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

「活力と輝き」

ーロータリーの基本を大切にー



鯖江ロータリークラブ会長方針

「元気に～いま、私にできることを～」

会長 帰山 明朗

第2986回
9/3(金)

9月第1例会

点鐘:12:40

テーマ 「屋根とドローンについて」

サイトーバンキン(株)社長

会員 卓話 野中 敏昭 会員

第2987回
9/10(金)

9月第2例会

点鐘:12:40

テーマ 「金融経済情勢について」

日本銀行福井事務所長

卓話 中村 健一 様

第2988回
9/17(金)

9月第3例会

点鐘:12:40

文化プログラム

テーマ 「鯖江から発信する音楽」

卓話 フルト:山本 晴香 様
ピアノ:黒田 愛里 様

4つのテスト

- ① 真実かどうか
- ② みんなに公平か
- ③ 好意と友情を深めるか
- ④ みんなのためになるかどうか

出席率79.4%

9/3(金) 第2986回 例会報告

鯖江商工会議所 4階大ホール

開 会 点 鐘
四 つ の テ ス ト
国 歌 斉 唱
ロ ー タ リ ー ソ ン グ
会 長 の 時 間
幹 事 報 告 等
プ ロ グ ラ ム
閉 会 点 鐘

当時の場所・地籍は、中小路(中小路・上小路・下小路)に建設されました。今の旭町付近であったと言われていいます。その28年後の明治33年(1900年)に小学校を現在地(日の出町)に定め、新築工事に着手しましたと記録があります。

この校名の「惜陰」は鯖江藩江戸藩邸の学び舎「惜陰堂」からとったものですが、そもそもの「惜陰」の言葉の意味は、「時の過ぎゆくことを惜しみ 努力する」ということだそうです。

この由来となりましたのは、皆様のお手元にお渡しいました、

『大禹(だいう)は聖人にして乃(すなわ)ち寸陰(すんいん)を惜しめり、衆人はまさに分陰(ぶんいん)を惜しむべし』
—大禹聖人乃惜寸陰、衆人当惜分陰—

<晋書 しんじょ>

という言葉からです。

※『晋書』(しんじょ)は、中国晋王朝(西晋・東晋)について書かれた歴史書で、648年、中国の「唐」の時代に編集されたものです。その中に陶侃(とうかん)という武将により、この文が戒めとして作られたと記されています。

「禹 う」というのは、むかし中国を治めたといわれる聖王の事だそうです。

ことばの意味は、

「大禹(だいう)という王様は、聖人であるにもかかわらず、寸陰(短い時間)を惜しんで仕事に精励した。まして凡人たる者は、分陰(さらに短い時間)を惜しんでつとめなければならない」という東晋時代の名将陶侃(とうかん)の語ったことばであるそうです。

そういえば、「光陰矢の如し」の中の陰という言葉は、この時代にありまして、時間の事を言っていたなと思いましたが、寸陰というのは、短い時間の事で、その1/10ほどの短さの時間が分陰という言葉で捉えているようです。

コロナ禍の中で時間を短くしていましたが、卓話の時間に食い込んだりして足りないようですので、今日から5分間早めることをご了承ください。

奉仕の理想

口ずさむ程度にお歌いください。

会長の時間



帰山明朗 会長

今日から9月に入りました。朝晩も少しづつ涼しくなってきました。季節の移ろいを感じています。秋に近づいて来るに従って、日の暮れるのが少しずつ早くなってきています。本日は、時間についてお話しします。

私の母校である『惜陰小学校』150周年を迎えるという事で、準備委員会に参加してきました。

惜陰小学校は、明治5年8月(1872年)、鯖江藩校「進徳館」が小学校となり、同10年に江戸藩邸の「惜陰堂」の名をとり「惜陰小学校」と改名され、10月に校舎を新築されました。

結婚祝い



大橋 良史 会員
野呂 和夫 会員
岡本 圭子 会員
榊原 広輝 会員

誕生祝い



大島 恒彦 会員
森家 亮 会員

勤続表彰



齋藤多久馬 会員
榊原 広輝 会員

幹事報告



佐野 直美 幹事

本日例会終了後に定例理事会をこの会場にて行います。理事の皆様、よろしくお祈りいたします。

サイトーバンキン(株)社長

卓話 野中 敏昭 会員 テーマ 「屋根とドローンについて」



孝久 治宏 プログラム委員長

本年度最初の卓話は、野中敏昭会員にお願いします。「屋根とドローンについて」です。今後毎月第一例会を会員卓話で計画しています。会員相互の理解の為に卓話・専門職のセンスを伝授する卓話としてお話しただけると嬉しいです。

卓話者: サイトーバンキン(株)社長 野中敏昭会員
テーマ: 「屋根とドローンについて」

皆さんこんにちは、こうして縁台に立ち、皆様にお話しするのも、会長の時間依頼2か月ぶりでございます。本日、屋根とドローンについて卓話させていただきます。

ドローンの存在が、有名になったのは、2015年4月に首相官邸屋上で未確認のドローン(小型無人機)が発見された事件からです。2015年4月22日、発煙筒などを搭載したドローンが官邸屋上に落ちているのを官邸職員が発見。所有者の男が逮捕され、威力業務妨害罪などで有罪判決を受けた。事件後、飛行ルールなどの法整備が加速されました。

さて、まずドローンとは何か お話したいと思います。私が初めてドローンを購入したのは、2016年11月に ドビーという重さ199gの小さなドローンです。飛行可能時間は、9分ほどのおもちゃの様なものでした。ドローンとは、無人飛行機の総称です。一般的に、ドローンと聞いて想像するのは、4~8つのプロペラが付いたラジコン(RC)だと思えます。確かにドローンなのですが、これはドローンの中の1種であり「マルチコプター」と呼ばれるものです。簡単に言うと、ドローンという大きなジャンルの中にマルチコプターが入るとイメージですね。海というジャンルに(ドローンというジャンルに)、太平洋や日本海やインド洋がある(マルチコプターや農業散布用ラジコンヘリがある)と例えたと分かりやすいでしょうか?

ドローンの由来は?

ドローンという名前がついた語源は、オスの蜂です。無人の小さい機体が飛行する時の、プロペラの風を切る音が、蜂が飛ぶ時の音に似ているからです。まさにイメージする、ブーンという蜂の音にそっくりですよ。ドローン自体は、もともと軍用で利用されていました。無人小型ヘリコプターを利用して偵察に飛ばしたり、救援物資を届けたり、用途は様々です。

しかし近年、モバイル技術の進歩やバッテリーの小型化によって、マルチコプターに搭載されました。操縦技術が必要だったマルチコプターが、革新的に用途が広がっていったのです。ドローンを飛行させる際には、無人航空機の飛行ルールにも注意する必要があります。海外だけでなく日本でもドローンが普及し始めた頃、総理大臣官邸屋上に落下したドローンが発見され、2015年に航空法が改正されました。

規制対象の無人航空機は先ほどの小型無人機等飛行禁止法と同じですが、200g未満の重さの機器は除外されるので、トイタイプのドローンやラジコン機は含まれません。

無人航空機の飛行許可が必要な空域は以下の通りです。

・空港等の周辺空域

- ・人または住宅の密集している地域上空
- ・地表または水面から高さ150m以上の空域

これらの空域でドローンを飛ばす場合、航空機の安全に影響する可能性や、落下した際に地上にいる人間に危険が及ぶ可能性が考えられるため、前もって国土交通大臣に許可を取っておく必要があります。飛行させるにあたって他にも、

- ・日中に飛行させる
- ・人や車両などとの距離を30m保つ
- ・イベント会場上空では飛行させない

といった原則があり、これらがどうしてもできないという場合、国土交通大臣の承認が必要となります。とはいえドローンを飛行させるのであれば、なるべくこの原則ルールは守ったほうが良いでしょう。ドローンの違反飛行は罰金刑に処されます。最高金額が50万円。幸いなことに懲役刑はないので、罰金だけで済むのですが、いやはや前科一犯も付くので軽く見ないほうが良いですね。

私は、ドローンを使って、屋根の点検調査、実測、完成写真に活用しています。点検及び実測のメリットは、

- ・短時間で点検を行える
- ・細かな部分も点検できる
- ・屋根が傷むリスクが無い
- ・安全に屋根の点検ができる
- ・屋根の高さや形状に制限がない
- ・業者と共に屋根の状態を確認できる

ドローンの活用分野は、

- ・測量分野
- ・空撮分野
- ・農業分野
- ・物流分野
- ・医療分野
- ・人材育成・人材派遣分野
- ・情報システム分野
- ・アプリ開発分野
- ・通信分野

と、多岐に広がっています。機体市場の主軸となるドローン製造分野では、現在、DJI社(中国)やParrot社(フランス)、3D Robotic(アメリカ)は市場シェアの大半を占めています。中でもDJI社は世界シェア7割ともいわれ、日本でも多く使われています。中でもDJI社は世界シェア7割ともいわれ、日本でも多く使われています。日本シェアについては、日本のドローン市場参入が遅れたことが大きく、NTTドコモなどの大手企業もドローン開発に参入しており、数年以内には徐々に日本市場のシェアが変化していくのではないかと考えられます。

今回は、ドローンにまつわる業界のビジネスモデルの近い未来について見てきました。

「ドローン」という言葉自体は日本でも広く浸透しはじめていますが、日本のドローン市場はまだ成長段階です。現在、ドローンを活用したビジネスモデルが次々に生まれていく一方で、今後のドローンはより高度な技術が求められ、汎用性の高いドローンではなく専門性の高いドローンが開発されていくことも予想されます。

そうすると、国内ドローン開発メーカーの発展がよりスピーディーに進み、これまでドローンが参入していなかった分野での新しい活用も見込めます。今後は世界と同じく日本の市場も加速度的に市場が拡大していくことは世界的にみても間違いのないでしょう。

とても、便利なものですが使い方間違えると、とても危険な兵器に代わります。人類の平和のために活用して欲しいと思います。

たごころBOX報告

帰山 明朗 会員 9月になりました 秋の気配です 今月もよろしくお祈りします 野中会員の卓話を楽しみに

佐野 直美 会員 野中会員の卓話を楽しみに

野中 敏昭 会員 卓話頑張ります

岡本 圭子 会員 結婚祝いをいただきありがとうございます

野呂 和夫 会員 結婚祝いをいただき 野中さんの卓話を楽しみに

大橋 良史 会員 野中 さんの卓話を楽しみに 勤続素養を頂いて(8月)

齋藤 多久馬 会員 野中会員の卓話に期待して

梅田 吉臣 会員 野中会員の卓話に期待して

窪田 健一 会員 //

酒井 芳則 会員 //

深見 泰和 会員 //

吉田 俊博 会員 //

小淵 洋治 会員 //



小淵洋治 ニコニコ委員長